

## 故團野弘之先生寄贈「正法眼藏諸写本」の調査結果について

鶴見大学 海野 雅央

元本学文学部教授であった團野弘之先生が生前全国のご寺院等渉獵し、調査・蒐集された「正法眼藏諸写本」（略称「團野写本」）が、平成十三年度にご遺族から本学図書館に寄贈された。この度、主に近世の書写本を除くフィルムが仏教文化研究所に移管されたのを機に、その活用を検討するため、フィルムの状態を調査することになった。その調査結果について報告する。

フィルムの形態は、團野先生ご自身が撮影されたと思われる三十五ミリネガフィルムが殆どであるが、その他にも若干のマイクロフィルムがあつた。また、研究所に移管された際に一部のフィルムに酢酸臭を放ち、ビネガーシンδροームの状態を呈したものがあつた。そこで、当初の調査目的はフィルムの劣化調査を行い、劣化しているフィルムがどのくらいあり、そのうち修復可能なものはどのくらいあるかを明らかにすればよいと考えて、調査が計画された。調査の計画にあたっては、五月二十七日に文京区シビックセンターにて開催された『劣化マイクロフィルム対策セミナー』（主催…（株）ニチマイ・劣化マイクロフィルムを救う会）に池准教授とともに参加したり、フィルム修復専門業者やマイクロフィルム専門業者にも意見を求めながら、用意周到に準備を進めた。

具体的な調査をするにあたって、準備としてまず行なったのが次の二点である。

その一つは、調査対象のネガフィルムが五千七百五十本もあるので、その対象を絞り込み、調査をしなくてもわかる

範囲で、劣化が進み修復が無理なフィルムをまず明らかにした。これは、事前の専門業者との打合せで、特に金属缶で保管されたフィルムに劣化が進んだものが多いこと等がわかっていたので、これらを選び出し、改めて綿密な調査を依頼した。その結果、「修復不可のフィルム」が十四点（十三点がネガで一点がマイクロ）あることが判明した。

次に、『永平正法眼蔵蒐書大成』（正編二十七巻、続編十巻、永平正法眼蔵蒐書大成刊行会編、大修館書店、昭和四十七年（平成七年刊））に収録されている諸写本に対象フィルムが含まれているものは、調査対象から除いた。調べた結果、五十三点が収録されていることがわかった。

以上の六十七点を調査対象からはずし、当初の対象リストから漏れていた『正法眼蔵弁註』や『正法眼蔵私記』等に加え、最終的な調査対象フィルムを確定した。これが左記記載の通り、ネガフィルムが百九十四点四千四百三十九本となった。

調査方法は、予めタイトルが記入された別紙の調査票の各項目につき、当該フィルムをチェックし、その結果を記入する方法で行なった。数が多いネガフィルムを優先的に調査を行なったが、マイクロフィルムは時間不足で調査できなかった。

調査は、八月十七日～三十一日の十一日間、海野ほか三名のドキュメンテーション学科の学生が行なった。調査結果は、別紙の通りで、当初は予想していなかった撮影不良（本文の上に手を置いたまま撮影されたもの等）のフィルムが四十四点もあることが判明した。調査所見にもふれたが、これらのフィルムは撮影し直すしか方法がなく、このままデジタル化等の計画を進めることは困難になった。また、撮影不良のものをはずしてデジタル化等も考えられるが、そういう形で作業を進める意味があるのかどうか疑問が残る。

以上について、十月二十七日開催の運営委員会では報告を行なった。これに対し、木村所長から「修復可能なフィルムだけでデジタル化することにどれほどの資料的価値があるのかの判断は簡単にはできない。当該の写本フィルム及

びマイクロフィルムを今後どのようにしていくかについては、時間をかけて検討していきたい」との発言があった。この旨を付言する。

### 調査対象リスト

調査対象リスト等は、團野弘之先生が編まれた左記の『所在目録』正・続に一連番号を付与し作成した。また、リストのタイトルは、團野弘之先生編著の『正法眼蔵写本の書誌学的研究』によった。

- ・『正法眼蔵写本の所在目録』（昭和六十二年九月三日現在 團野弘之編 昭和六十二年十月二十四日 龍宝寺）  
一～百六十一の番号を付与
- ・『正法眼蔵写本の所在目録』続（平成三年十月一日 團野弘之編 平成三年十月一日 龍宝寺）  
百六十二～百八十九の番号を付与
- ・『正法眼蔵写本の書誌学的研究』（團野弘之編著 平成十一年一月十五日 團野弘之）
- ・実際に調査された対象フィルムは、以下のネガフィルム百九十四点で、その結果をまとめたものが「別表」である。
- ・末尾に「調査所見」を付す。

三	実相寺蔵正法眼蔵	ネガ三十一本
六	蚶満寺蔵正法眼蔵	ネガ二十六本
八	武内正俊氏蔵正法眼蔵二冊	ネガ五本
九	天徳寺蔵正法眼蔵	ネガ二十九本

十ノ一	寶藏寺藏正法眼藏	ネガ二十二本
十ノ二	寶藏寺藏八十九卷本正法眼藏袈裟功德	ネガ一本
十一	照陽寺藏正法眼藏	ネガ三十一本
十二	林泉寺藏正法眼藏	ネガ二―一本
十三	孝顯寺藏正法眼藏	ネガ三十五本
十四	興正寺藏正法眼藏	ネガ二十四本
十五	桂林寺藏正法眼藏	ネガ三十四本
十八	大雄寺藏正法眼藏	ネガ三十一本
十九	輪王寺藏正法眼藏	ネガ二十五本 (六欠)
二十	興嚴寺藏正法眼藏	ネガ二十五本
二十一	寶積寺藏正法眼藏	ネガ三十四本
二十二	補陀寺藏正法眼藏	ネガ二十七本 (十七欠)
二十三	龍田寺藏正法眼藏	ネガ十九本
二十四	安龍寺藏正法眼藏	ネガ二十三本
二十五	大林寺藏正法眼藏	ネガ三十五―一本
二十六―一	勝胤寺藏九十五卷本正法眼藏	ネガ三十一本
二十六―二	勝胤寺藏七十五卷本正法眼藏	ネガ一本
二十六―三	勝胤寺藏正法眼藏影室	ネガ一本
二十七―一	河村孝道氏藏八十九卷本桃牛寺旧藏正法眼藏	ネガ三十五本

二十七—三	河村孝道氏藏九十卷本卍山良高序正法眼藏	ネガ十五—一本
二十七—四	河村孝道氏藏七十四卷本正法眼藏	ネガ二十六本
二十七—五	河村孝道氏藏九十五卷本津梁書写正法眼藏	ネガ三十三—四本
二十七—六	河村孝道氏藏九十五卷本種月寺旧藏正法眼藏	ネガ三十一—三本
二十七—七	河村孝道氏藏九十五卷本定正院旧藏正法眼藏	ネガ三十二—二本
三十一—一	駒沢大学図書館蔵八十卷本永建寺旧藏正法眼藏	ネガ二十一—三本
三十一—二	駒沢大学図書館蔵永久文庫八十四卷本桃溪書写正法眼藏	ネガ十二本
三十一—三	駒沢大学図書館蔵永久文庫八十四卷本英元書写正法眼藏	ネガ二十三本
三十一—四	駒沢大学図書館蔵永久文庫八十四卷本功山寺旧藏正法眼藏	ネガ二十本
三十一—五	駒沢大学図書館蔵永久文庫長谷寺旧藏正法眼藏	ネガ十六本
三十一—七	駒沢大学図書館蔵永久文庫千栄寺旧藏正法眼藏	ネガ二十四本
三十一—九—一	駒沢大学図書館蔵永久文庫八十三卷本正法眼藏五冊	ネガ七本
三十一—九—二	駒沢大学図書館蔵永久文庫本正法眼藏諫蠹録	ネガ四本
三十一—九—三	駒沢大学図書館蔵永久文庫本正法眼藏補闕録	ネガ二本
三十一—九—四	駒沢大学図書館蔵永久文庫本正法眼藏三冊	看經 諸惡莫作 三界唯心 ネガ一本
三十一—十	駒沢大学図書館蔵永久文庫七十八卷本正法眼藏	ネガ二十七本
三十一—十一	駒沢大学図書館蔵永久文庫七十九卷本飯田書写正法眼藏	ネガ二十六本
三十一—十三	駒沢大学図書館蔵永久文庫永松寺藏正法眼藏抜粹書	ネガ三十本
三十一—十四	駒沢大学図書館蔵永久文庫九十六卷本独掌書写正法眼藏	ネガ四十二本

三十一—十五	駒沢大学図書館蔵永久文庫九十六卷本逸先書写正法眼蔵	ネガ三十四本
三十一—十八	駒沢大学図書館蔵永久文庫九十五卷本通和尚書写正法眼蔵	ネガ三十五本
三十一—十九	駒沢大学図書館蔵永久文庫九十五卷本戒傳書写正法眼蔵	ネガ十九本
三十一—二十	駒沢大学図書館蔵永久文庫九十五卷本本光本系正法眼蔵	ネガ十三本
三十四	泉龍寺蔵正法眼蔵	ネガ三十七本
三十九	清源院蔵正法眼蔵	ネガ三十四本
四十二	萬松院蔵正法眼蔵	ネガ十六本
四十三	吉藏寺蔵正法眼蔵	ネガ三十四本
四十五	慈眼寺蔵正法眼蔵	ネガ三十四本
四十六—一	慈光寺蔵正法眼蔵	ネガ十八本
四十六—二	慈光寺蔵七十八卷本正法眼蔵	ネガ二十五本
四十七	徳泉寺蔵正法眼蔵	ネガ三十四本
四十八	楞嚴寺蔵正法眼蔵	ネガ三十四本
四十九	林泉寺蔵正法眼蔵	ネガ二十七本
五十	寶壽寺蔵正法眼蔵	ネガ三十七本
五十一	千光寺蔵正法眼蔵	ネガ三十五本
五十三—一	大本山總持寺祖院蔵八十九卷本道明玉團書写正法眼蔵	ネガ三十本
五十三—二	大本山總持寺祖院蔵九十卷本永山書写正法眼蔵	ネガ三十四本
五十三—三	大本山總持寺祖院蔵九十五卷本淳經書写正法眼蔵	ネガ二十八本

五十六—十一	大本山永平寺藏八十四卷本義淳書写正法眼藏	ネガ二十八本
五十六—十二	大本山永平寺藏八十四卷本承天書写正法眼藏	ネガ三十一本
五十六—十四	大本山永平寺藏九十六卷本遵古書写正法眼藏	ネガ三十四本
五十六—十五	大本山永平寺藏九十五卷本寂峰書写正法眼藏	ネガ三十三本
五十六—十七	大本山永平寺藏九十五卷本克民書写正法眼藏	ネガ十九本
六十一—一	岩松院藏八十九卷本道覚書写正法眼藏	ネガ三十五本
六十三	興隆寺藏正法眼藏	ネガ二十四本
六十四	定津院藏正法眼藏	ネガ三十六本
六十六	洞泉寺藏正法眼藏	ネガ二十八本
六十七	正宗寺藏正法眼藏	ネガ三十八—一本
六十八	大林寺藏正法眼藏	ネガ二十二本
七十一—二	岸沢文庫藏七十五卷本玉童書写正法眼藏	ネガ二十八本
七十一—三	岸沢文庫藏玄中所持正法眼藏	ネガ四十一本
七十一—四	岸沢文庫藏八十八卷本大龍書写正法眼藏	ネガ三十七—一本
七十一—五	岸沢文庫藏八十三卷本離北良重書写正法眼藏	ネガ二十六本
七十一—七	岸沢文庫藏八十四卷本智拙書写正法眼藏	ネガ二十六本
七十一—八	岸沢文庫藏六十卷本系正法眼藏四冊	ネガ十一本
七十一—十	岸沢文庫藏九十一卷本正法眼藏	ネガ三十五本
七十一—十一	岸沢文庫藏九十六卷本正法眼藏	ネガ三十八—一本

七十一—十二	岸沢文庫蔵九十六卷本面山序正法眼蔵	ネガ三十八本
七十一—十三	岸沢文庫蔵八十九卷本安國寺旧蔵正法眼蔵	ネガ三十二本
七十一—十四	岸沢文庫蔵八十九卷本仁山傳英書寫正法眼蔵	ネガ二十六本
七十一—十五	岸沢文庫蔵九十五卷本鰲山書寫正法眼蔵	ネガ三十一本
七十一—十六	岸沢文庫蔵九十六卷本古鑑書寫正法眼蔵	ネガ三十三本
七十一—十七	岸沢文庫蔵九十五卷本洞明良瓊書寫正法眼蔵	ネガ三十本
七十一—十九	岸沢文庫蔵九十五卷本本光本系正法眼蔵	ネガ四十本
七十一—二十	岸沢文庫蔵長年寺本正法眼蔵影室	ネガ二十八—一本
七十一—二十六	岸沢文庫蔵正法眼蔵傍訓	ネガ四十五本
七十一—二十八	岸沢文庫蔵洞雲寺本正法眼蔵	ネガ十九本
七十一—三十	岸沢文庫蔵秘密正法眼蔵	ネガ十一本
七十一—三十二	岸沢文庫蔵永徳寺本正法眼蔵	ネガ八本
七十一—三十三	岸沢文庫蔵大本山永平寺本丹嶺書寫正法眼蔵	ネガ三本
七十一—三十四	岸沢文庫蔵八十四卷本洞善院旧蔵正法眼蔵	ネガ六本
七十一—三十五	岸沢文庫蔵龍満寺本正法眼蔵	ネガ四本
七十一—三十六	岸沢文庫蔵興正寺本正法眼蔵	ネガ一本
七十一—三十七	岸沢文庫蔵吉蔵寺本正法眼蔵	ネガ五本
七十一—三十八	岸沢文庫蔵源光庵本正法眼蔵	ネガ三本
七十一—三十九	岸沢文庫蔵東運寺本正法眼蔵	ネガ一本



七十一—四十	岸沢文庫蔵長見寺本正法眼蔵	ネガ二本
七十一—四十一	岸沢文庫蔵天徳寺本正法眼蔵	ネガ一本
七十一—四十二	岸沢文庫蔵本秀幽蘭注脚正法眼蔵	ネガ一本
七十一—四十三	岸沢文庫蔵瑠璃光寺本正法眼蔵	ネガ二十六本
七十一—四十四	岸沢文庫蔵濱崎始頭注脚正法眼蔵	ネガ八本
七十一—四十五	岸沢文庫蔵草山書龍書入正法眼蔵	ネガ三本
七十一—四十六	岸沢文庫蔵御抄書入正法眼蔵	ネガ一本
七十一—四十七	岸沢文庫蔵黙室良要書入正法眼蔵	ネガ一本
七十一—四十八	岸沢文庫蔵古知知常書入正法眼蔵	ネガ一本
七十一	最福寺蔵正法眼蔵	ネガ二十六本
七十三—一	正福寺蔵八十四卷本正法眼蔵	ネガ三十三本
七十三—二	正福寺蔵九十五卷本正法眼蔵	ネガ二十九本
七十四—一	松秀寺蔵八十四卷本兼中書写正法眼蔵	ネガ二十七本
七十四—二	松秀寺蔵八十四卷本祥雲書写正法眼蔵	ネガ二十八—二本
七十五	福王寺蔵血書正法眼蔵八冊	ネガ十三本
七十六—一	普濟寺蔵正法眼蔵	ネガ四十本
七十六—二	普濟寺蔵血書正法眼蔵三冊	ネガ五本—五袋
七十七	雲興寺蔵正法眼蔵	ネガ二十六本
七十九	川口高風氏蔵正法眼蔵	ネガ十五本

八十一	乾徳寺藏正法眼藏	ネガ	三十本
八十四	最明寺藏正法眼藏	ネガ	二十九本
八十五	西明寺藏正法眼藏	ネガ	二十五本
八十六	春江院藏正法眼藏	ネガ	二十五本
八十九	真福寺寶生院藏正法眼藏大悟	ネガ一本（大須文庫）	
九十	瑞泉寺藏正法眼藏	ネガ	三十一本
九十三―一	田島毓堂氏藏七十九卷本正法眼藏	ネガ	十本
九十三―二	田島毓堂氏藏九十五卷本正法眼藏	ネガ	三十一本
九十五	東光寺藏正法眼藏	ネガ	四十九本
九十七	如意寺藏正法眼藏	ネガ	三十六―一本
九十八	普濟寺藏正法眼藏	ネガ	三十一本
百四	龍溪院藏正法眼藏	ネガ	十九本
百五―一	靈岩寺藏正法眼藏傍訓	ネガ	三十八本
百六	靈鷲院藏正法眼藏	ネガ	三十四本
百七	常安寺藏正法眼藏	ネガ	三十九本
百九	清涼寺藏正法眼藏	ネガ	三十六本
百十	洞寿院藏正法眼藏	ネガ	三十二本
百十二	安養寺藏正法眼藏	ネガ	三十四本
百二十	禪定寺藏正法眼藏	ネガ	三十四本

百二十一	東運寺藏正法眼藏	ネガ三十一本
百二十五	養林庵藏正法眼藏	ネガ二十五本
百二十七	佛眼寺藏正法眼藏	ネガ三十五—二本
百二十八—一	陽松庵藏正法眼藏	ネガ二十六本
百三十	樂音寺藏正法眼藏	ネガ三十七本
百三十三	大寧寺藏正法眼藏	ネガ三十五本
百三十六	龍満寺藏正法眼藏	ネガ二十九本
百三十七	寶泉寺藏正法眼藏	ネガ二十一本
百三十八	瀧 <small>ろく</small> 巖寺藏正法眼藏	ネガ三十六本
百三十九	常福寺藏正法眼藏	ネガ三十四本
百四十一—一	永明寺藏九十五卷本曹源書写正法眼藏	ネガ二十九本
百四十一—二	永明寺藏九十卷本正法眼藏	ネガ三十二本
百四十二	圓通寺藏正法眼藏	ネガ三十五本
百四十四	法泉寺藏正法眼藏	ネガ十六本
百四十五	香積寺藏正法眼藏嗣書	ネガ三本
百四十六	世尊寺藏正法眼藏	ネガ三十五本
百四十七	千手寺藏正法眼藏	ネガ三十四—一本
百五十	功山寺藏正法眼藏五冊	ネガ九本
百五十二—二	瑠璃光寺藏正法眼藏副本三冊	ネガ六本

百五十三―一	丈六寺藏七十八卷本百川所持正法眼藏	ネガ十九本
百五十三―二	丈六寺藏八十九卷本周外堂所持正法眼藏	ネガ四十三本
百五十三―三	丈六寺藏八十九卷本享保五年書寫正法眼藏五冊	ネガ十七本
百五十三―四	丈六寺藏八十九卷本正法眼藏四冊	ネガ八本
百五十三―五	丈六寺藏八十九卷本默堂所持正法眼藏二冊	ネガ四本
百五十五	金龍寺藏正法眼藏	ネガ二十本
百五十七	正善寺藏正法眼藏	ネガ三十二本
百六十二	龍雲院藏正法眼藏	ネガ十五本
百六十七	世尊寺藏正法眼藏	ネガ三十六本
百七十	自得寺藏正法眼藏一冊	ネガ二本
百八十一	青岸寺藏正法眼藏	ネガ三十二本
百八十四	大岳院藏正法眼藏	ネガ二十六本
百八十五	海徳寺藏正法眼藏	ネガ三十六本
百八十六―一	香積寺藏七十五卷本正法眼藏四冊	ネガ十本
百八十六―二	香積寺藏八十四卷本正法眼藏二冊	ネガ六本
百八十六―三	香積寺藏八十九卷本正法眼藏九冊	ネガ一本
百八十六―四	香積寺藏八十九卷本正法眼藏傳衣・袈裟功德	ネガ二本
百八十六―五	香積寺藏八十九卷本正法眼藏袈裟功德	ネガ二本
百八十七	溪壽寺藏正法眼藏	ネガ三十一本

百八十九—一	龍澤寺藏八十九卷本正法眼藏	ネガ二十四本
百八十九—二	龍澤寺藏九十五卷本正法眼藏	ネガ七本
百九十一—一	龍覚寺藏正法眼藏	十冊本　ネガ十一本
百九十一—二	龍覚寺藏七十九卷本正法眼藏	七冊本　ネガ十五本
百九十一	法雲寺藏正法眼藏	ネガ五十本
百九十二—一	正龍寺藏正法眼藏	ネガ十一本（六十卷本系）
百九十五	清光院藏正法眼藏	ネガ十六本
百九十六	香積院藏正法眼藏	ネガ三十五本
百九十八—一	松源寺藏正法眼藏	瑩山和尚傳光録　ネガ五本
百九十八—二	松源寺藏正法眼藏	永平一派室内傳　ネガ二本
百九十八—三	松源寺藏正法眼藏	涉典和語鈔　ネガ二本
百九十八—四	松源寺藏正法眼藏	哲宗求眼藏鈔序・三界唯心篇・涉典補闕録・和語梯　ネガ六本
二百六	駒沢大学図書館藏九十五卷本本光本正法眼藏五冊	ネガ二十一本
二百九	駒沢大学図書館藏永久文庫正法眼藏弁註	ネガ三十九本
二百十	駒沢大学図書館藏永久文庫正法眼藏私記	ネガ三十本
二百十一	永久院藏正法眼藏私記	ネガ七本
二百十三	普濟寺藏正法眼藏弁註	ネガ十八本
二百十四	養林庵藏梵清本正法眼藏	ネガ二本
二百十五	藏法寺藏正法眼藏袈裟功德	ネガ二本

〔別表〕

状 態	点 数	備 考
正常（修復可含む） キズあり	百四十三点 七点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィルムにキズや穴がある</li> <li>・水ぬれがある</li> </ul>
撮影不良	四十四点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の手が写り本文が読めない</li> <li>・頁をめくる途中で写し本文が読めない</li> <li>・一部に光が入り字が読めない</li> <li>・一つのフィルムを二重に写す</li> </ul>

〔調査所見〕

まず、当初の予想通り、金属缶に納められたネガフィルムの十三点が修復不可となった。次に、百九十四点のネガフィルムについて調査を行なったが、その結果は、当初予想をしていなかった撮影不良が多くあることがわかった。このうちの大部分は、本文の上に手を置いたまま撮影されたもので、部分的に本文が読めない状態のものである。その他にも、数は少ないが、頁をめくる途中で撮影され、本文が読めない状態のものもあった。更に撮影方法の不適切さが原因と考えられるものも数点あり、合計で四十四点を撮影不良として扱うこととなった。

この撮影不良のものについては、再び撮影し直すしか方法が見つからず、当初に考えていたところとは違う課題が新たに発生し、このまま当初のデジタル化等の計画を進めることは困難と判断するに至った。

## 【付録】

### 團野弘之先生について

正法眼藏諸写本の調査・蒐集に生涯情熱を傾けた團野弘之先生は、平成十一年一月にそのライフワーク『正法眼藏写本の書誌学的研究』を上梓され、翌平成十二年七月九日に享年九十歳で逝去された。先生は、鎌倉市植木にある曹洞宗陽谷山龍寶寺の住職を務めるかたわら図書館員として一生を全うされた。以下、先生の図書館員としての足跡を簡単に紹介する。

先生は、明治四十四年五月九日鎌倉に生まれ、昭和六年三月文部省図書館職員養成所を終了、昭和十三年三月駒沢大学仏教学部仏教学科を卒業、そして戦後、昭和二十三年一月から神奈川県師範学校男子部図書室勤務をかわきりに、同年五月には文部事務官を、翌年十月には横浜国立大学附属図書館事務長に任ぜられ、昭和四十八年三月同図書館を退職されるまで、図書館の責任ある地位を勤めてこられた。その間、本学の文部科学大臣委嘱の司書講習の講師を昭和三十一年より担当され、筆者も昭和四十七年の夏期司書講習で〔目録法〕と〔目録法演習〕を受講し厳しくご指導いただいた。

その後、以上のような経緯や先生が宗門であることもあって、横浜国立大学を退職された昭和四十八年四月から本学文学部一般教育（図書館学）講師に就任され、翌四十九年四月には助教授に、五十二年四月に教授に昇任、五十七年三月まで本学に奉職された。

『正法眼藏写本の書誌学的研究』によると、昭和三十八年頃より同写本の調査・蒐集及び研究を開始されたとあるが、本格的に研究に従事されるようになったのは、本学を退職されてからで、先生が亡くなる直前に大著書誌学的研究が

完成されたのであろう。

本学と常に関係が深かった先生のご冥福をお祈りする。